

活動テーマ

長瀬町の観光に関する地域住民と来訪者のイメージギャップの可視化による
観光資源活用方策の最適化

長瀬町 ものづくり大学

1 活動目的

観光に関する評価に対して理想的状態からのギャップを定量的に把握することにより、観光資源活用の最適化を図ることを目的としている。活動目標として平成29年度は平成28年度と同様にステークホルダー間の観光に関する意識調査を実施し定量的な評価・分析及び新たな観光資源活用の方針を定め観光資源活用方針に関するワークショップの開催・モデルプランの企画を行うことを目標としている。

2 活動地域の現状

長瀬町は埼玉県西部の秩父郡に属し人口7千人ほどの町である。長瀬町は人口減少率が県内上位であるが埼玉県を代表する観光資源が多くあり、入込観光客数が平成28年度で270万人と観光産業が主流の町である。

3 活動内容

各ステークホルダーは内・外部評価者に考慮し、①長瀬町住民、②来訪者、の2者に定義する。特に②来訪者は、それぞれ季節ごとに観光目的や来訪属性が異なることを想定し、通年の春夏秋冬の内、まずは前年度に行った秋及び冬の調査に引き続き、春・夏調査の実施・取りまとめを行う。来訪者調査の際は現地でのイベント・観光地の見どころに合わせて春夏秋冬のそれぞれ来訪者が最も多いことが予想される金・土・日曜日の合計3日間(春夏秋冬×3日間=12日間)に渡り調査を実施した。また、①長瀬町住民に関しても各関係機関との調整を行い順次、調査を実施した。調査項目は性別・年齢・職業・家族構成など基礎属性から、来訪回数・来訪理由・認知方法・移動手段・来訪先・満足点など観光に関する項目を各ステークホルダーに調査を実施し、その結果からワークショップを行い観光資源の最適化を目指す。

◇ 活動状況写真

調査写真



観光ワークショップ写真



4 成果

今年度の成果として、考えられる要素は以下の3点である。

- ①各ステークホルダー間のギャップの把握
 - ②調査をもとに現行の観光資源活用方針の最適化の提示
 - ③次年度以降のモデルプランの基本骨子の計画
- などが今年度の成果として考えられる。

5 課題

来年度の課題として、考えられる要素は以下の3点である。

- ①各関連機関との連携
- ②住民からの協力意向
- ③来年度のワークショップ及び実証実験の参加者の誘致

6 次年度以降の計画

活動予定日	内容	参加人数
7月 中旬	観光モデルプラン開発ワークショップの実施に関する打ち合わせ	
8月 下旬	観光モデルプラン開発ワークショップ開催	
10月 中旬	観光モデルプラン開発ワークショップの内容をもとにしたモデルプランの開催	